

# 全国医学部長病院長会議 学生の学力低下問題に対するWG報告

## 全国医学部長病院長会議 学生の学力低下問題に対するWG

座長 吉村博邦

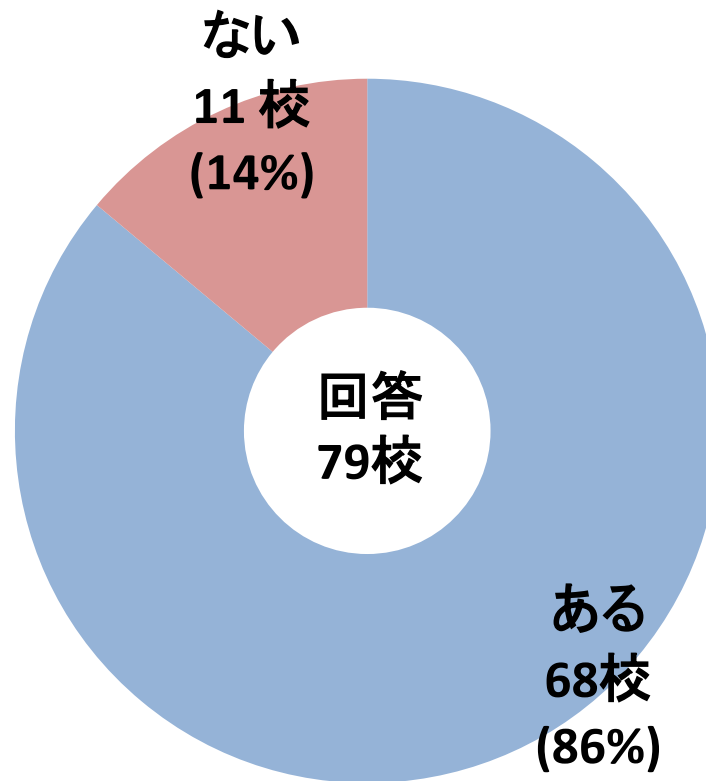
委員	神保	孝一	委員	堀内	三郎
委員	山下	英俊	委員	別所	正美
委員	奈良	信雄	委員	後藤	英司
委員	伊野	美幸	委員	有田	順
委員	大原	義朗	委員	上田	孝典
委員	松本	俊夫			

# アンケート調査結果

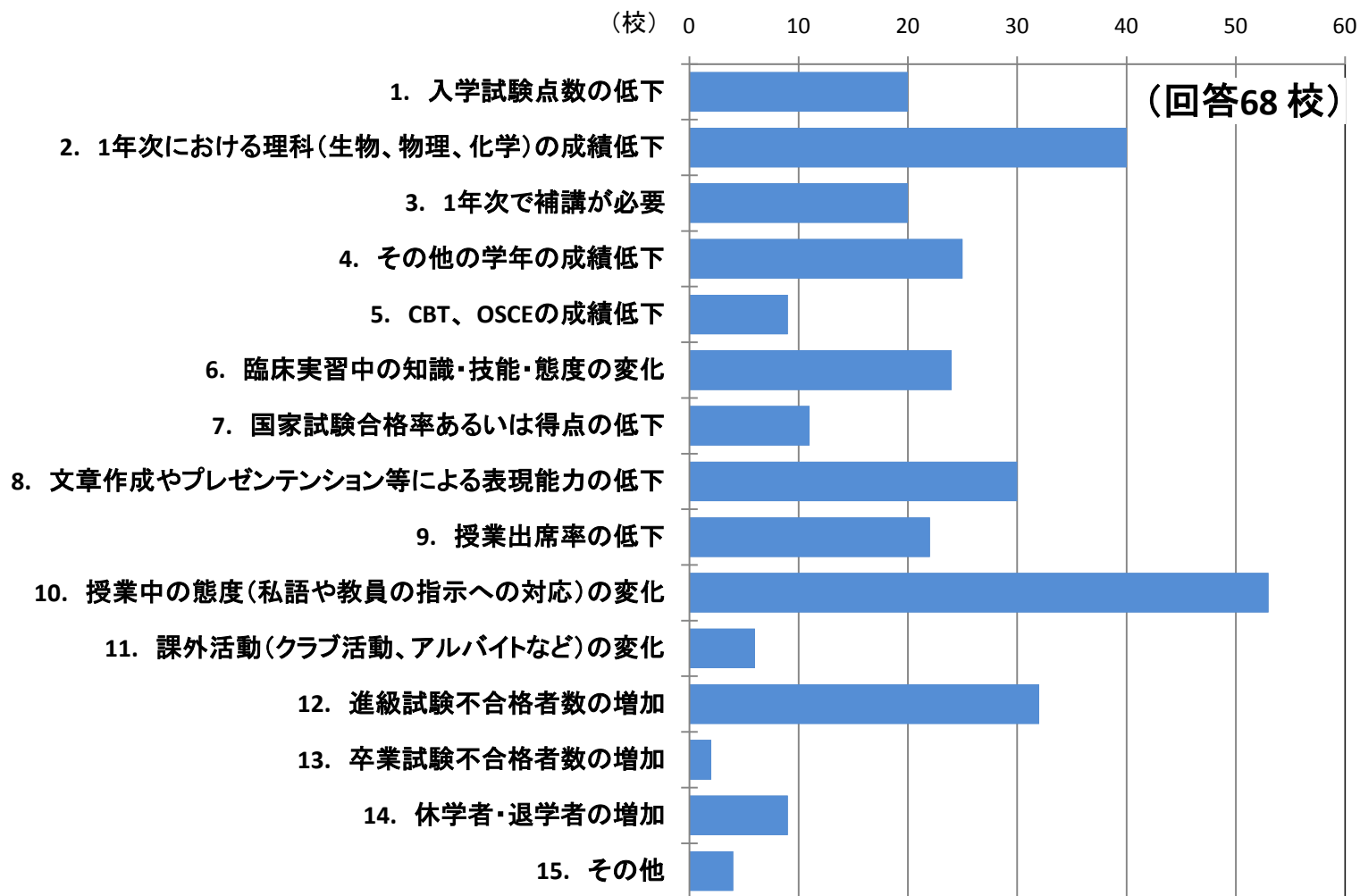
**対象： 全国国公立医科大学(医学部)80校  
医学部長あるいは教育担当責任者**

**調査時期： 平成22年12月～平成23年1月**

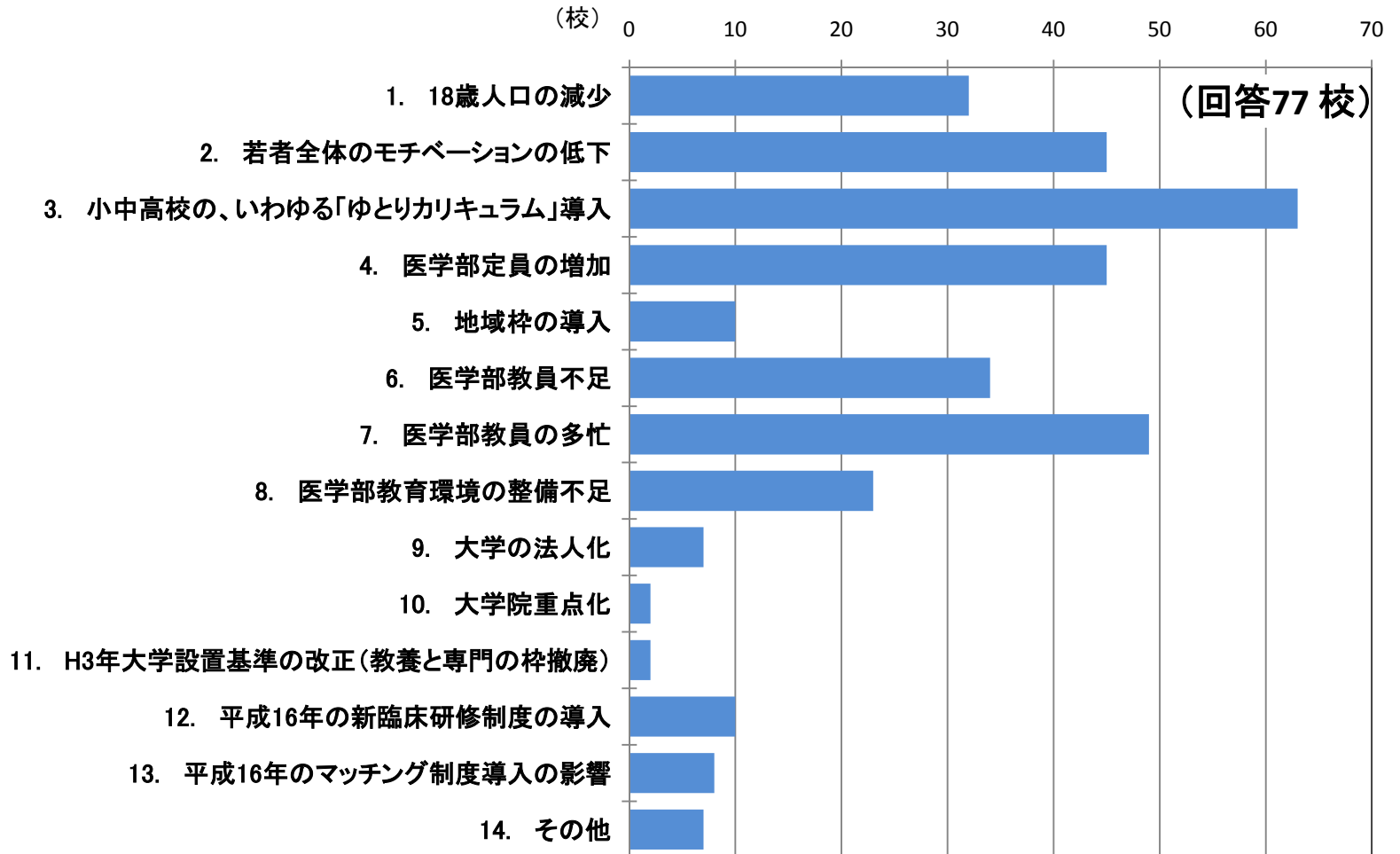
1. 教員から「学生の学力が低下して」いるという意見があったり、その様な傾向があったりしますか。



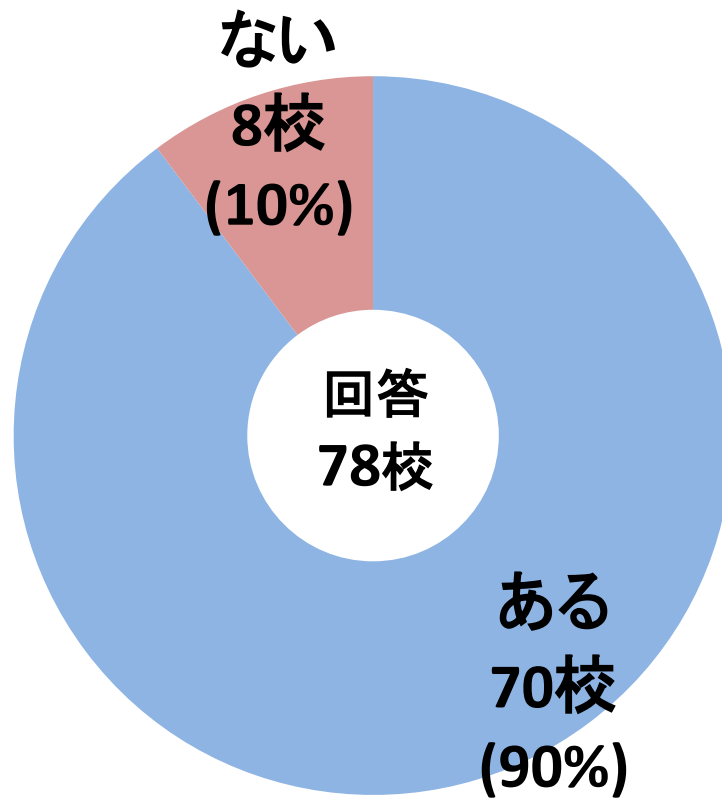
## 2. 「学生の学力が低下している」とする根拠としてどのような事項が考えられますか



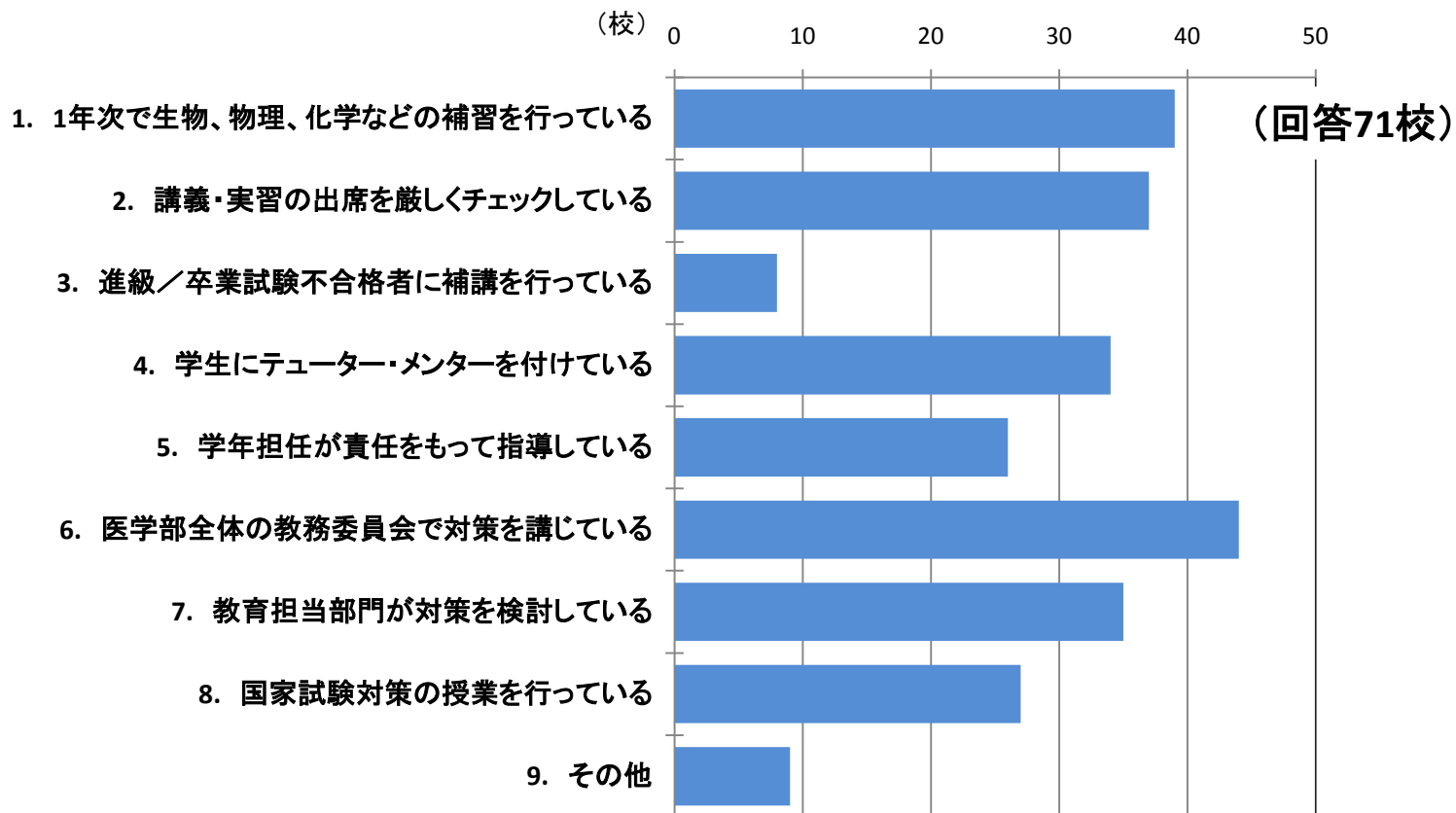
### 3. 「学生の学力低下」が懸念される場合、その原因としてどのような事項が考えられますか



#### 4. 「学生の学力低下」に対する何らかの対策を講じていますか

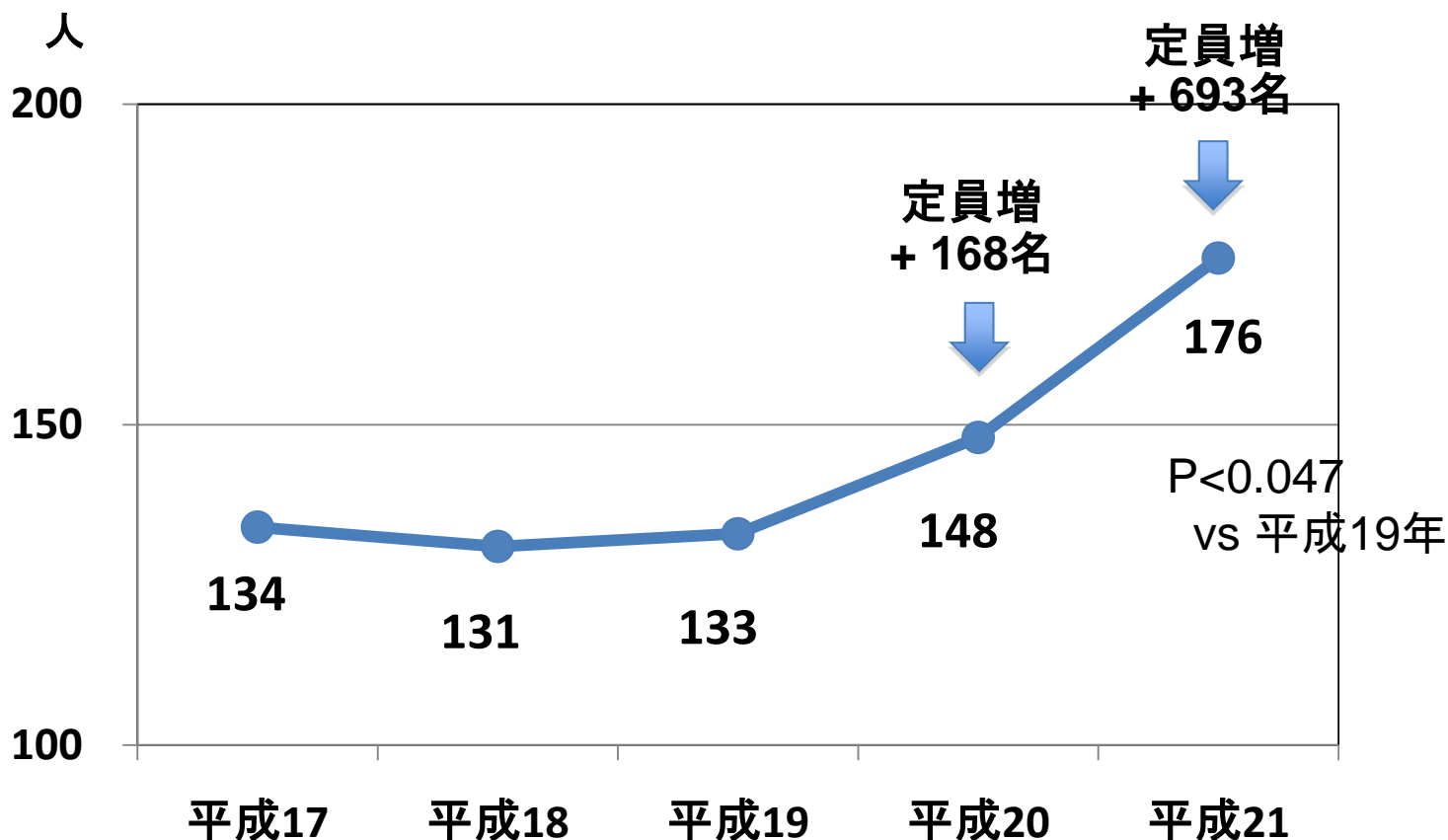


## 5. 貴学で講じている、「学生の学力低下」に対する 対策に該当するものをお選びください



## 6. 最近5年間の、1年生の留年者数

全国53校（国立30、公立2、私立21）



入学者に対する  
留年者の比率

2.644

2.556

2.620

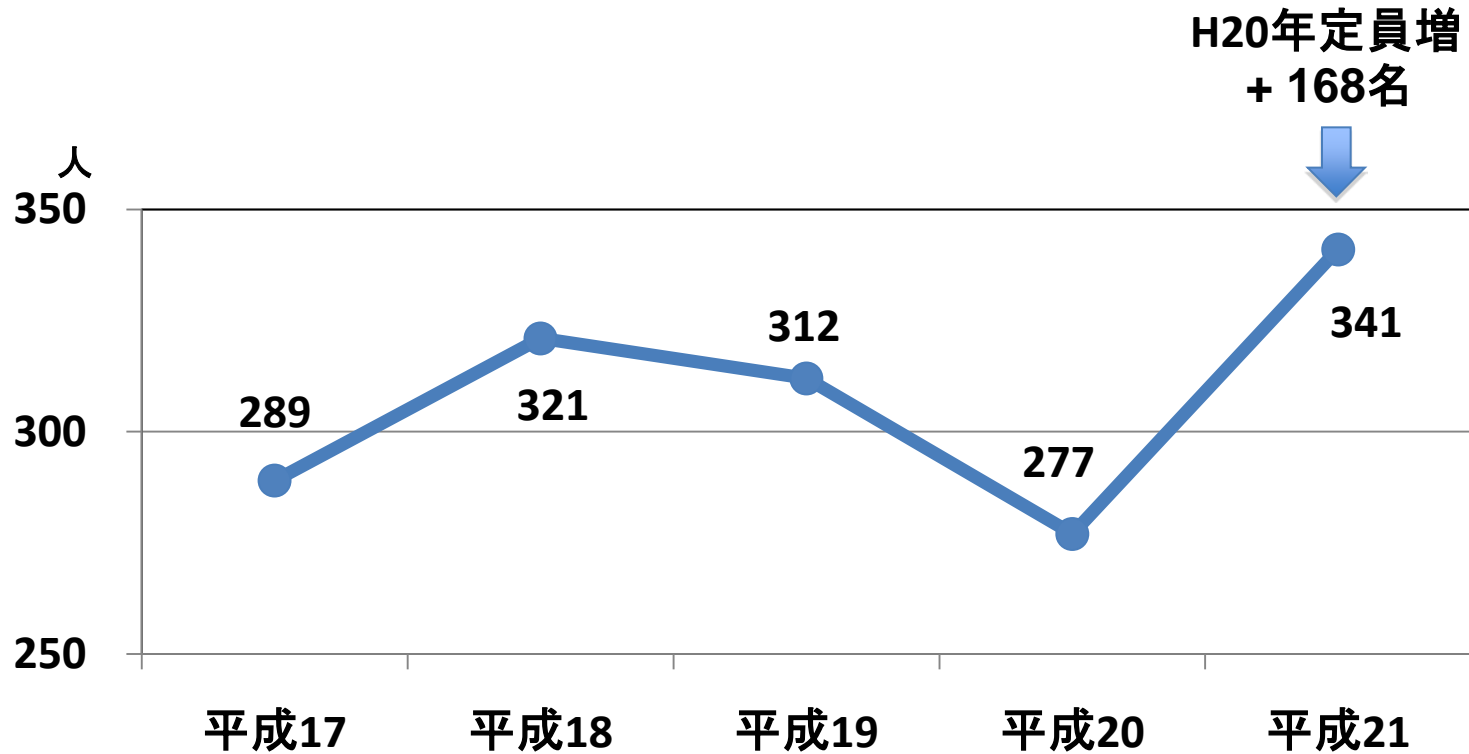
2.902

3.178



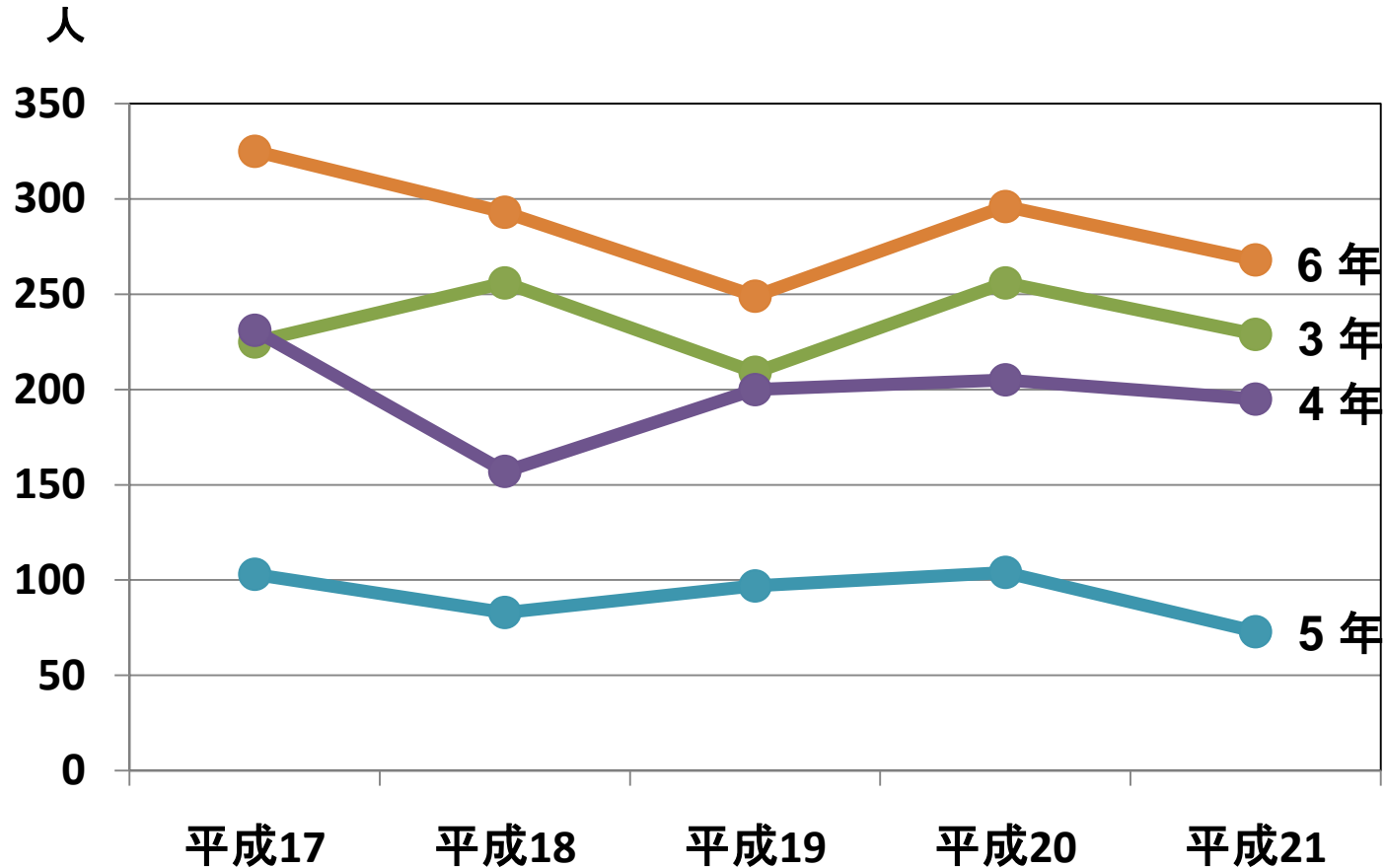
# 7. 最近5年間の、2年生の留年者数

全国53校（国立 30、公立 2、私立 21）



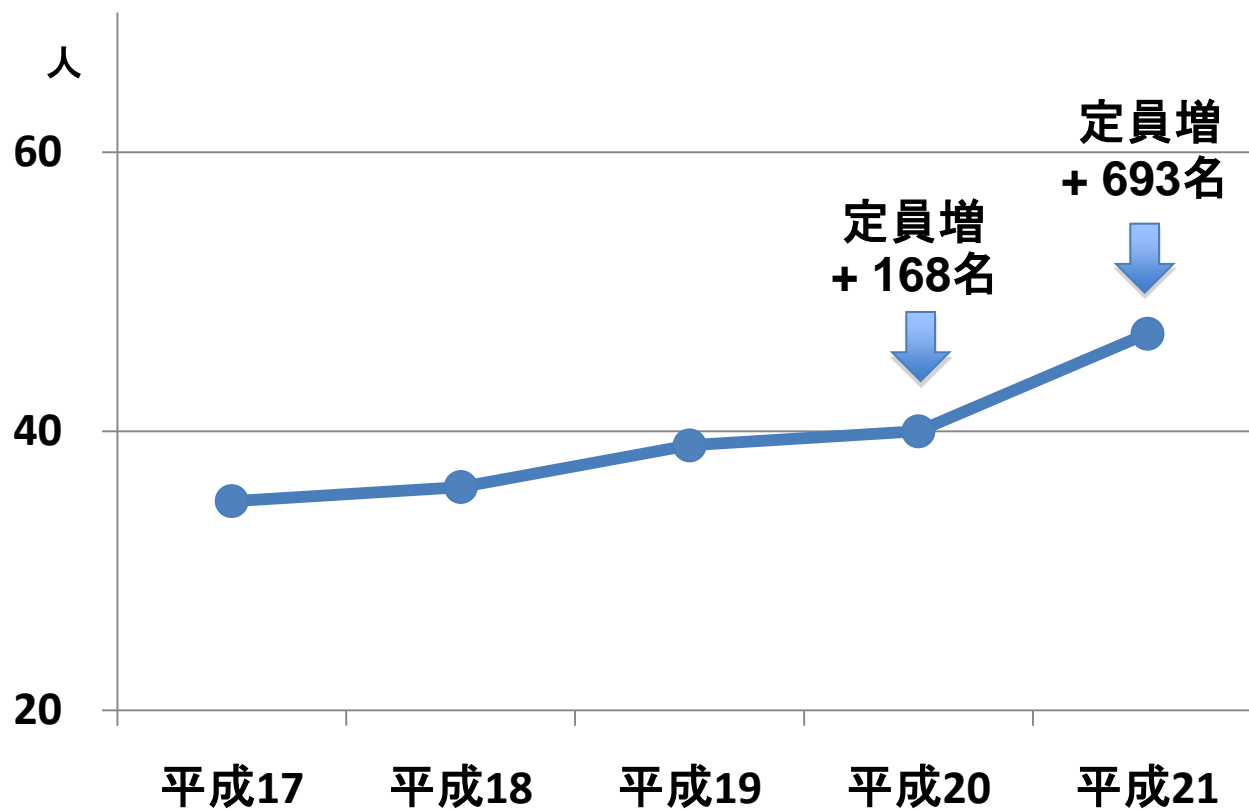
## 8. 最近5年間の、3～6年生の留年者数

全国53校（国立30、公立2、私立21）



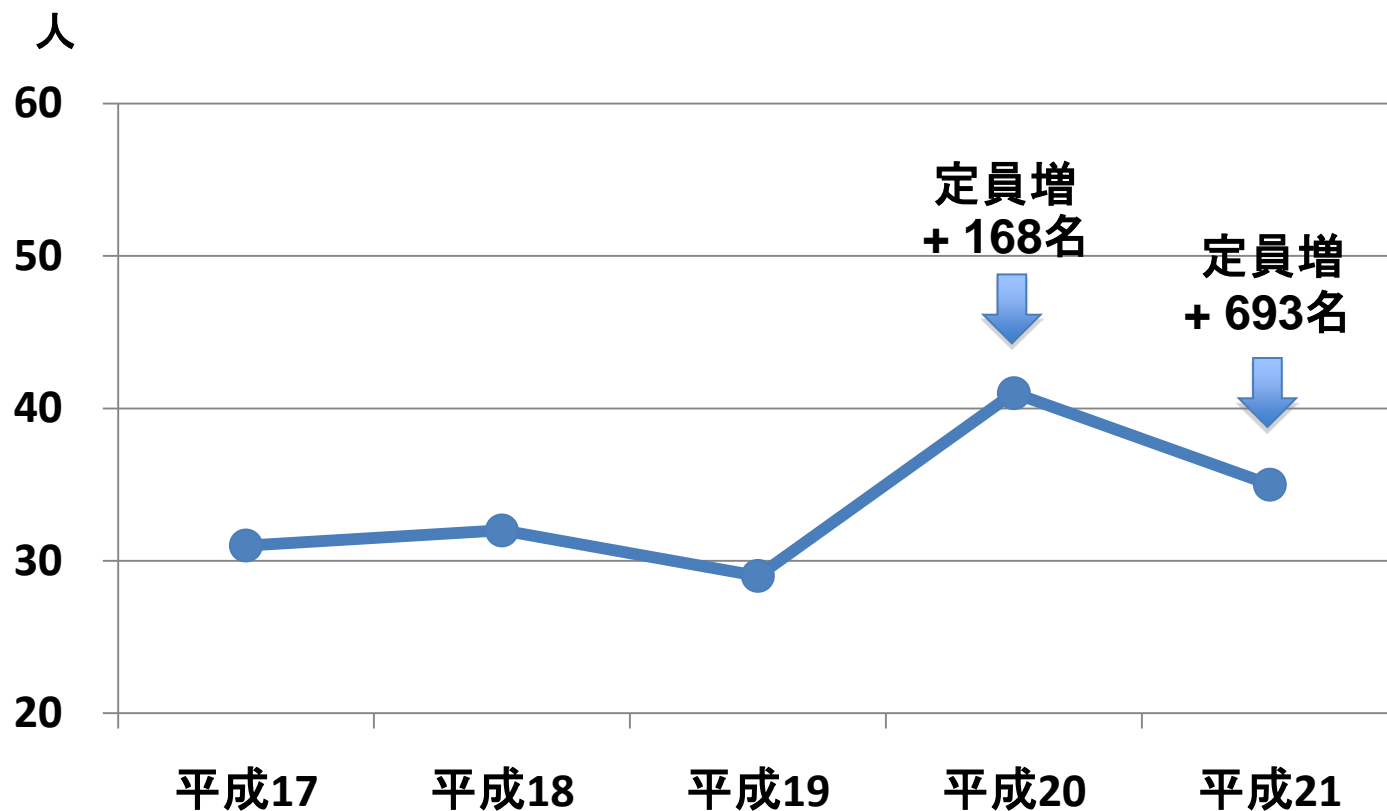
## 9. 最近5年間の、1年生の休学者数

全国50校（国立28、公立2、私立20）



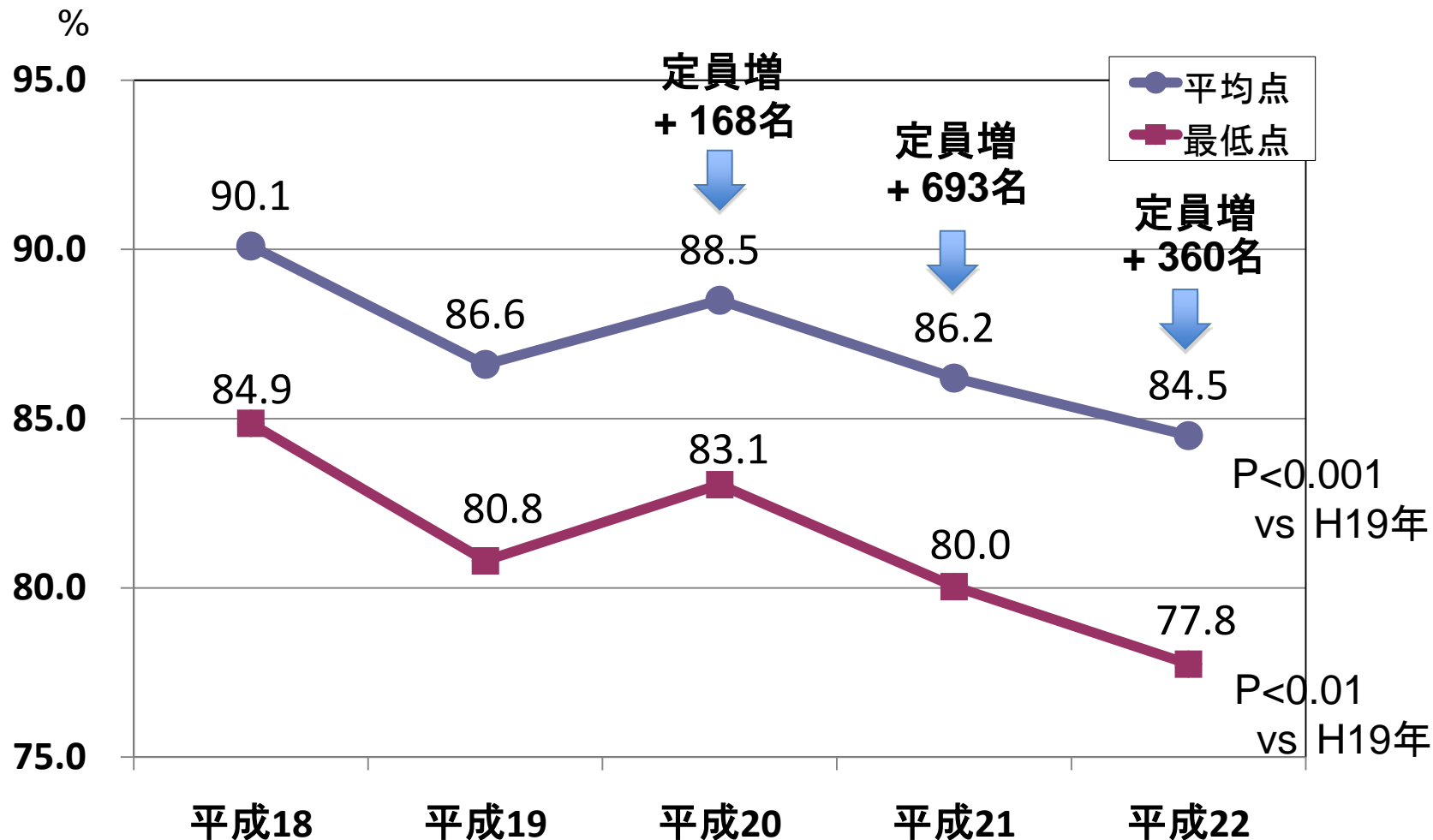
# 10. 最近5年間の、1年生の退学者数

( 国立 28 校、公立 2 校、私立 20 校 )



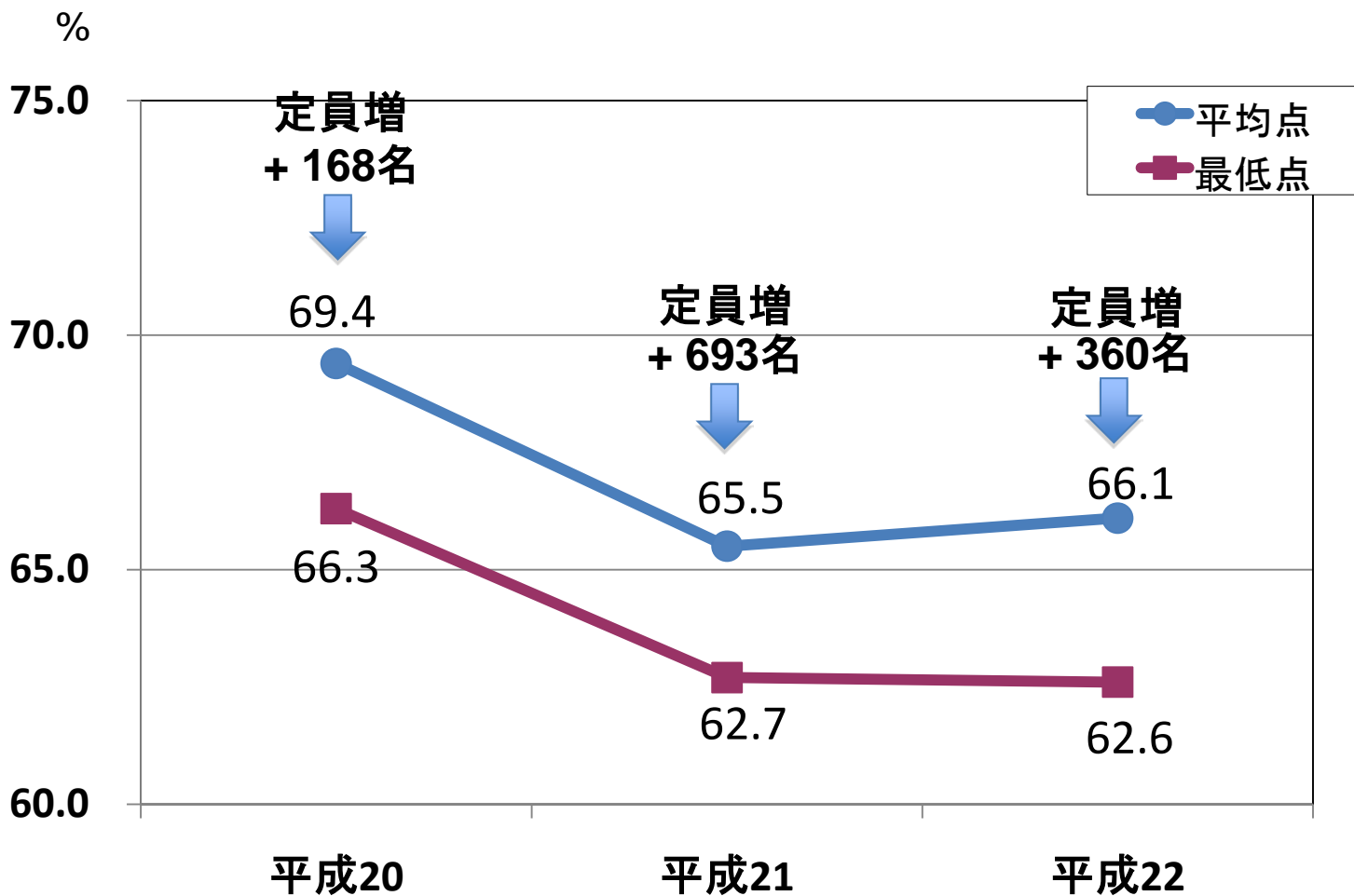
# 11. 「前期一般選抜試験の最終合格者」の センター試験の平均点と最低点(%)の推移

全国39校( 国立 30、公立 6、私立 3 )



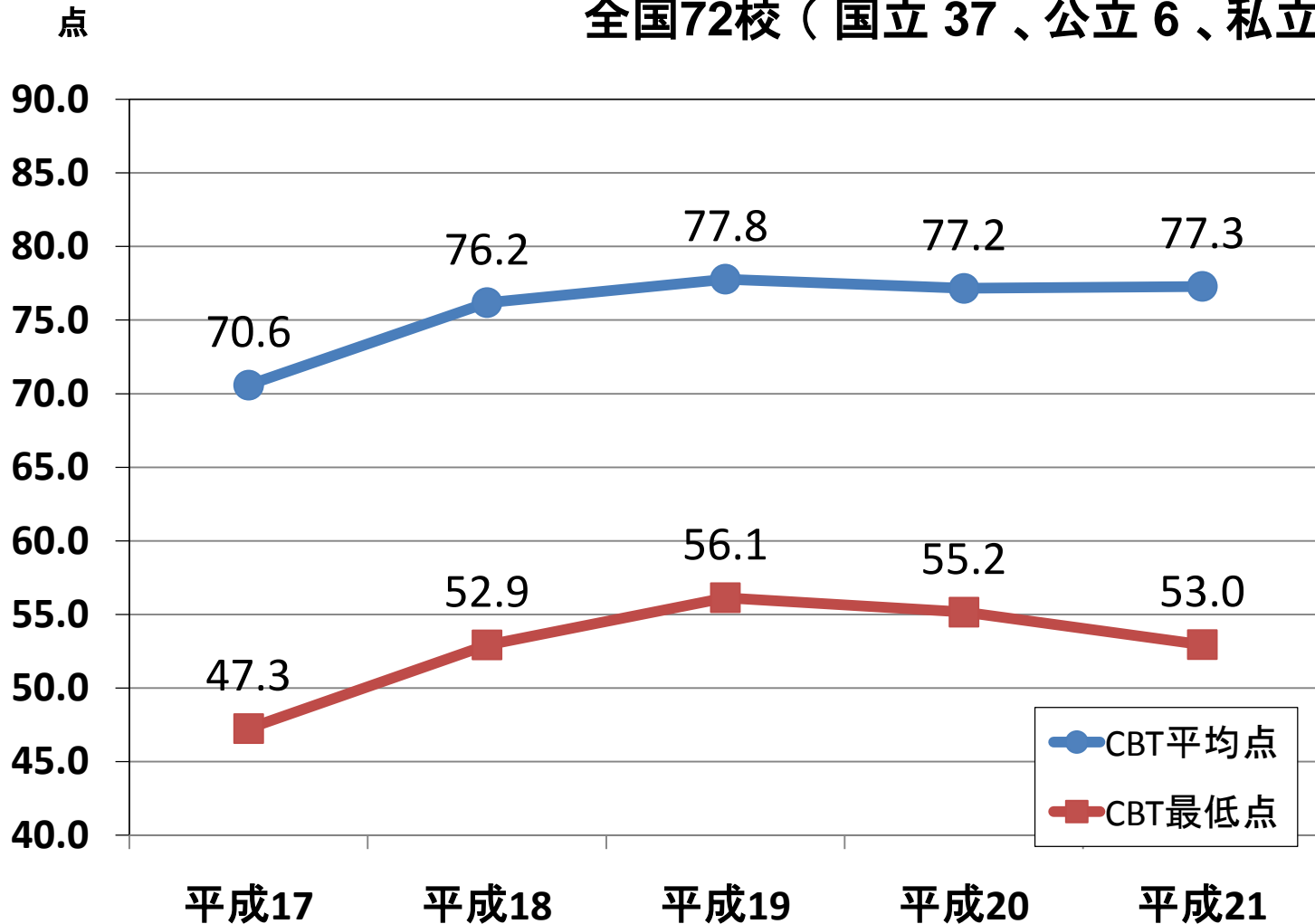
## 12. センター試験を採用していない大学の「一般選抜入試最終合格者」の平均点と最低点(%)

(私立8校)



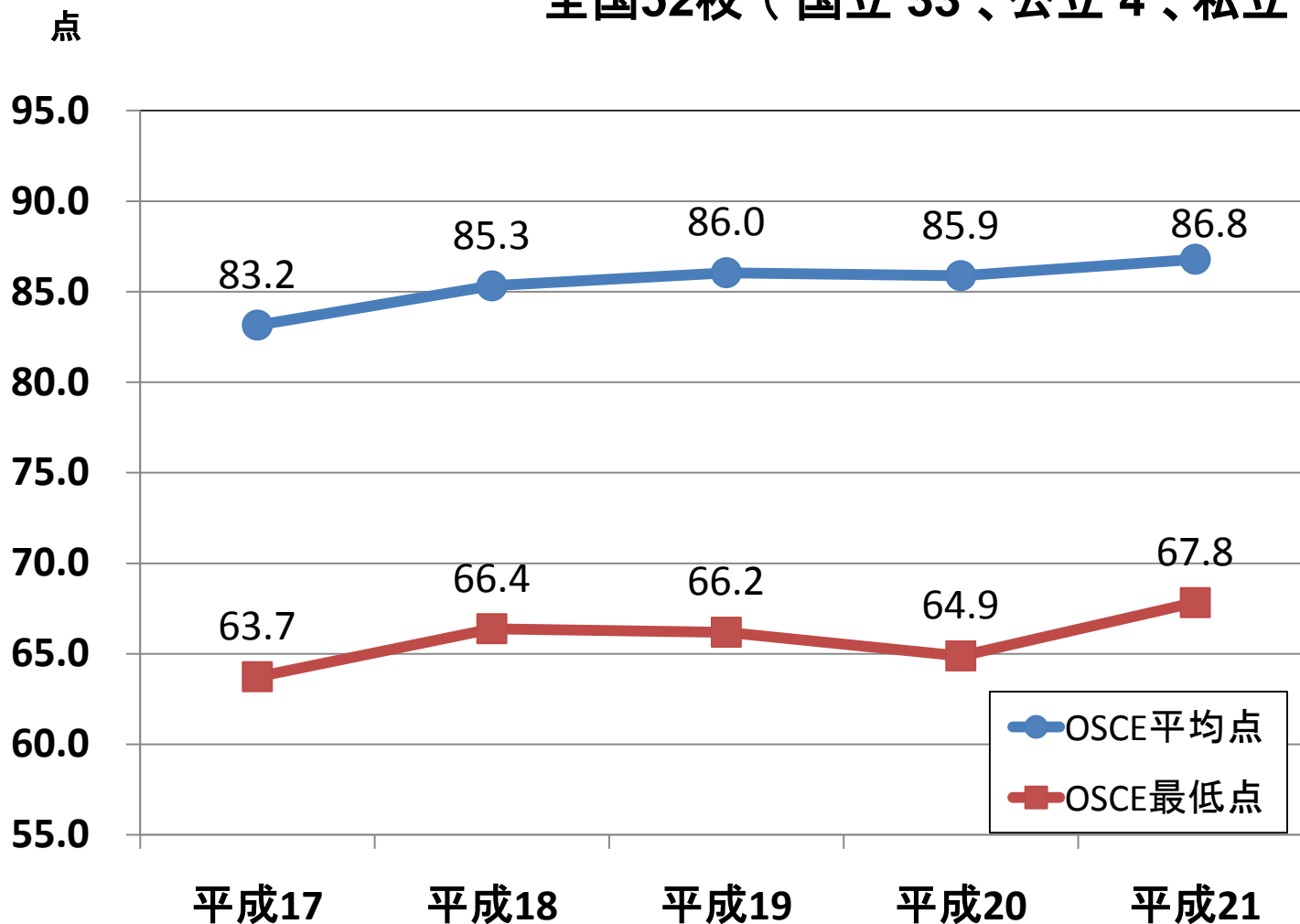
# 13. 最近5年間の、4年次学生、共用試験 CBT 平均点と最低点(100点満点)の推移

全国72校(国立37、公立6、私立29)



# 14. 最近5年間の、4年次学生、共用試験 OSCE 平均点と最低点(100点満点)の推移

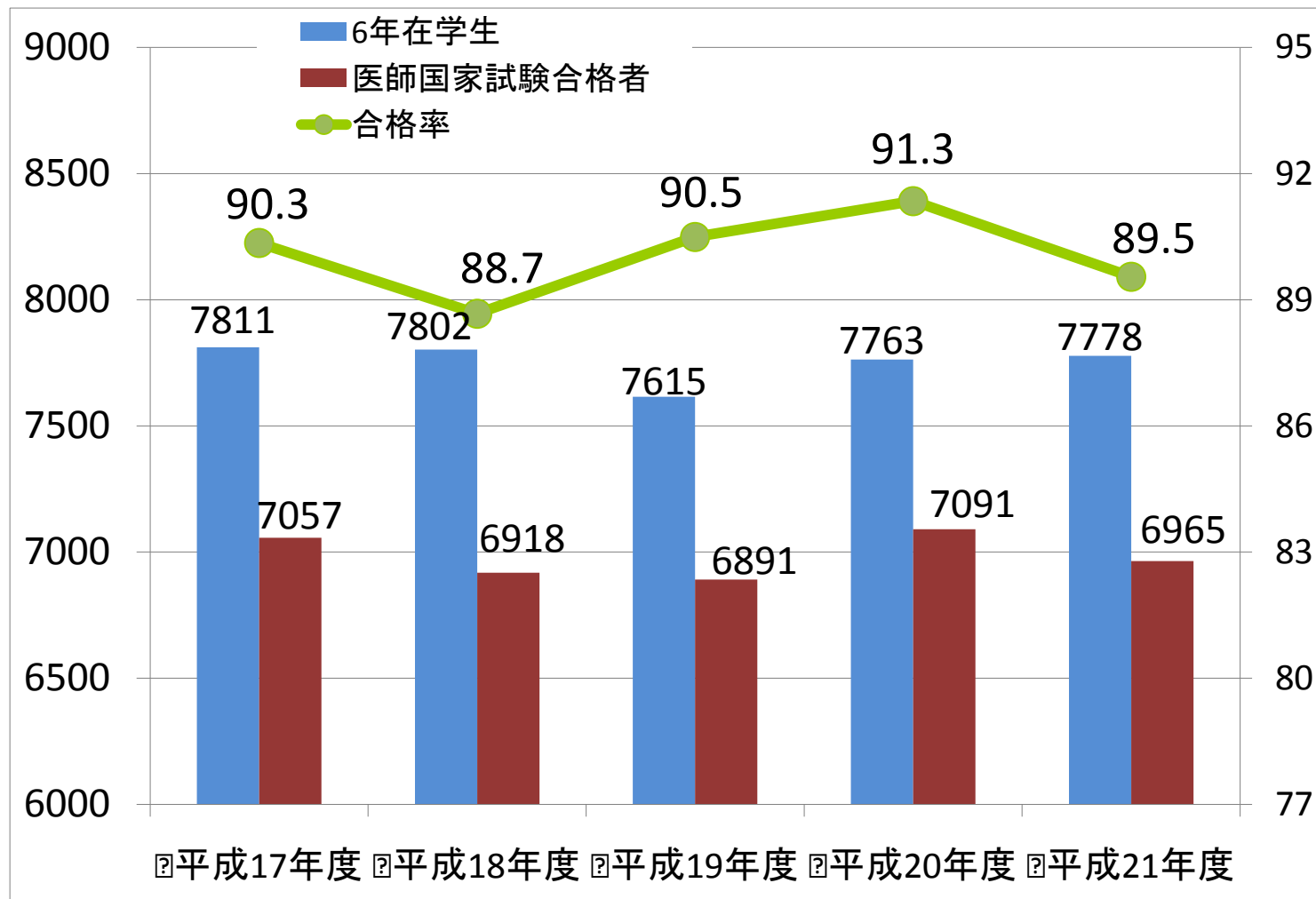
全国52校(国立33、公立4、私立25)





# 15. 最近5年間の、6年生の在籍数(4月時点)、 国家試験現役合格者数(翌年3月)

全国78校(国立42、公立8、私立28)



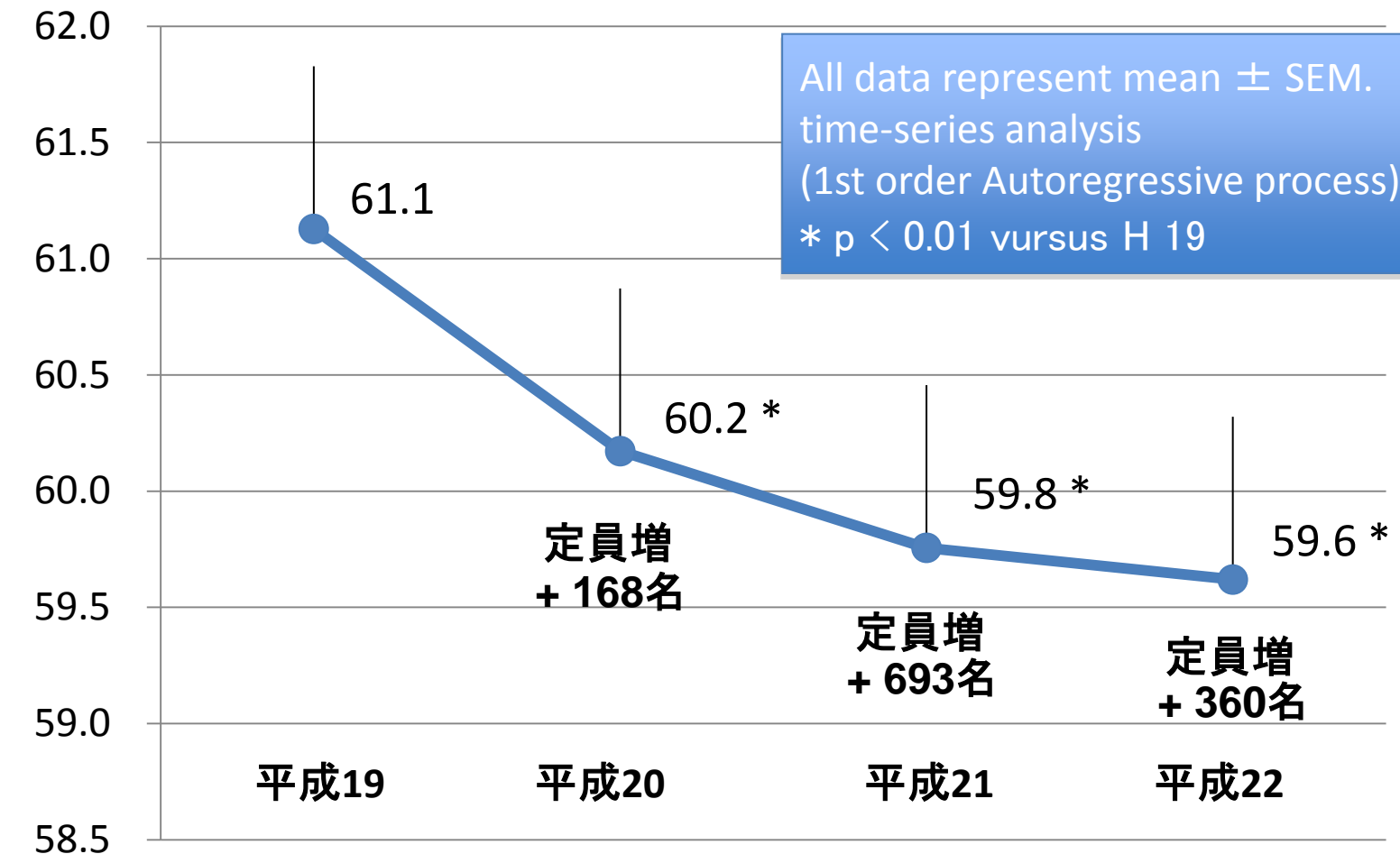
**(参考データ)**

**駿台予備校の模試データ**

**(駿台予備校提供)**

# 国公立大学50校の前期一般枠合格者の 駿台予備校模試偏差値の推移

偏差値



註： グラフ作成と統計処理は、本WGの後藤英司委員による。

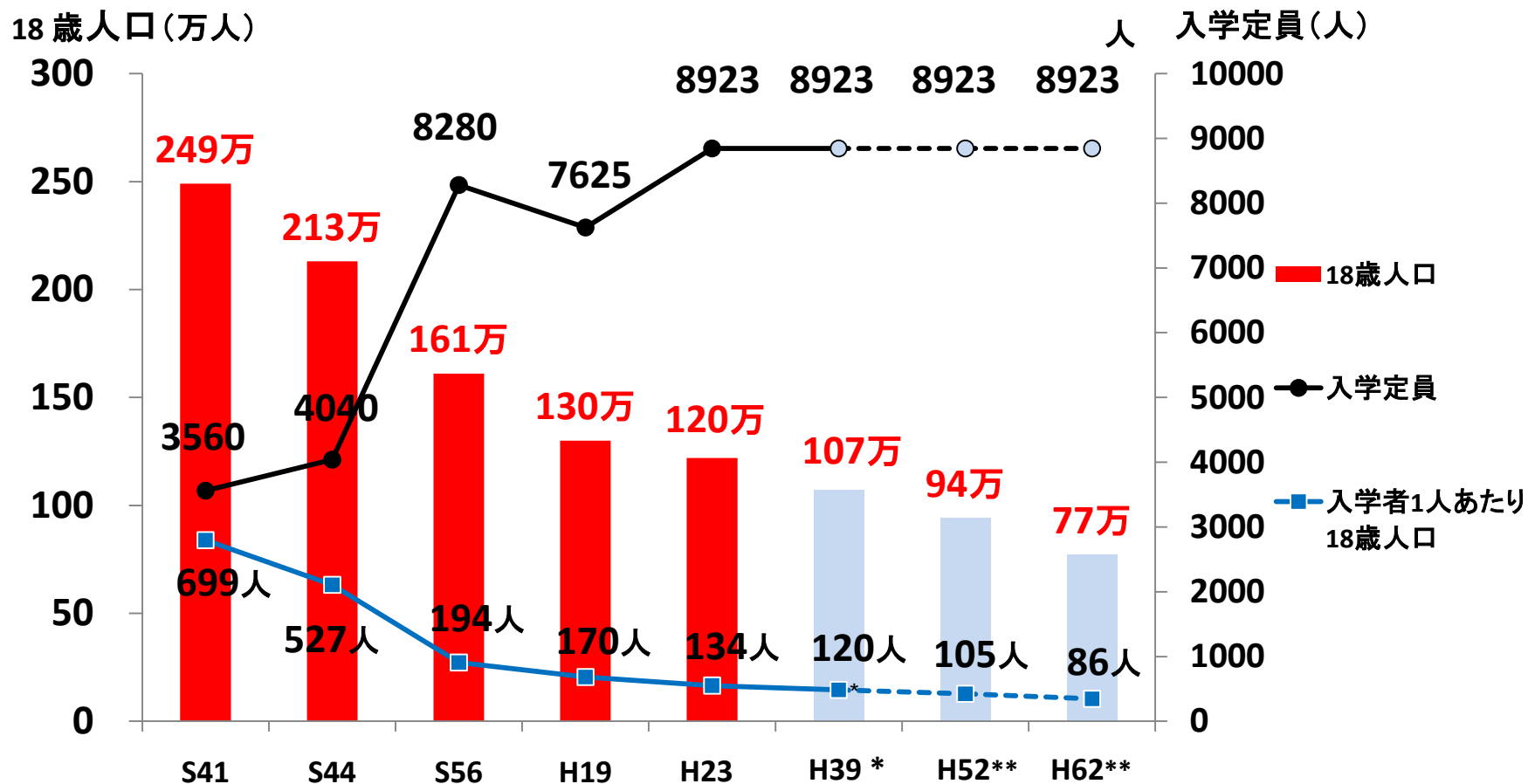
**(参考データ)**

**我が国の18歳人口と**

**医学部入学定員の推移について**

**(入学難易度の推移)**

# 「18歳人口」、「医学部入学定員」の推移と 「入学者1人あたりの18歳人口」の推移



( \* H39年の18歳人口は、厚生労働省人口動態統計によるH21年の確定出生数107万人を代用。)

( \*\* H52年、H62年の18歳人口は、国立社会保障・人口問題研究所の出生中位予測による。)

入学定員増と18歳人口の減少により、医学部入学の難易度は年々低下している。H23年ではS40年代の1/5以下になっている。

	入学定員	18歳人口	18歳人口何人に 1人が入学するか	18歳人口千人あたり 入学者
S41年	3,560人	249万人	1 / 699人	(1.4 / 1000人)
S56年 (新設医大設置)	8,280人	161万人	1 / 194人	(5.1 / 1000人)
H19年 (削減時)	7,625人	130万人	1 / 170人	(5.9 / 1000人)
H23年 (増員後)	8,923人	120万人	1 / 134人	(7.4 / 1000人)
H39年	8,923人 (11,000人)*	107万人	1 / 120人 (1 / 97人)	( 8.3 / 1000人) (10.3 / 1000人)

( \* 鈴木寛文部科学副大臣の提唱する入学定員)

# 調査結果のまとめ

1. 全国の医学部教員が、最近「学生の学力が低下している」と考えており、様々な対策を講じている。
2. 平成20年の定員増後、1年次および2年次学生の留年者数が増加し、休学者や退学者数も増加傾向を示している。定員増以前ではそのような傾向は見られない。留年者は、当該年次の進級試験の成績不良者であり、学力低下の証の一つである。
3. 前期一般枠合格者の学生のセンター試験、一般試験、予備校の模擬試験の成績でも、平成20年以降いずれも低下傾向を示している。
4. 過去5年間のCBT、OSCEの成績(4年次学生)、国家試験の合格率等(卒業生)には、明らかな変化は見られない。H20年以降の入学定員増の影響が強く示唆される。

# 結 語

1. 医学部学生の学力は、平成20年の入学定員増以降、明らかに低下傾向を示しており、将来の我が国の医師の質の低下が強く危惧される。
2. 過去4年間の入学定員増は、約1,300人(定員100人の大学13校分)であり、医学部入学への難易度は、平成23年現在、18歳人口の134人に1人の入学者、1,000人あたり7.4人の医師養成数であり、昭和40年代の18歳人口約700人に1人、1,000人あたり1.4人の医師養成数に比べ1/5以下に低下している。医師養成数はすでに高いペースに達しており、厚生労働省の試算によると、いずれ、近い将来医師過剰となることが予測されている。
3. これ以上の急激な医学部入学定員増は学生の学力低下を一段と加速することが懸念され、政府には、定員増に対する慎重な対応を強く求めたい。